

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

天城町立天城小学校

教諭 竹本 奈美

1. 単元名 徳之島産じゃがいもPR大作戦！

2. 単元の目標

- ・ 徳之島がじゃがいも栽培に適していることについて理解し、情報を比較、分類、関連付けるなどの探求の過程に応じた技能を身に付けることができる。
(知識及び技能)
- ・ 自ら問いを見だし、徳之島産のじゃがいもを多くの人に知ってもらうための方策を考えたり、考えたことをもとにポスターやパンフレットに表現して伝えたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- ・ どうすれば多くの人に徳之島産のじゃがいもを知ってもらえるか考え、主体的・協働的に活動に取り組むことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本校では、毎年3年生が農家の協力を得ながら、じゃがいも栽培に取り組んでいる。並行して、じゃがいもの歴史や種類、調理法などを調べる過程で、徳之島で栽培されるじゃがいもの良さを知ること、よりじゃがいも栽培を身近に感じ、それを未来に継承していこうとする態度を育てることができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、素直で明るく、どんな活動にも意欲的に取り組むことができる。地域との関わりも多く、子ども会活動や少年団活動、地域でのイベント等を通して、地域への愛着をもっている。

これまで、社会科「農家の仕事」で、さとうきびやじゃがいもの農家の仕事やその工夫について学んできた。この学習で、徳之島が農業が盛んな地域であること、それが受け継がれてきていることを知ることができた。また、1学期の総合「徳之島をもっと知ろうⅠ」の学習で、徳之島の文化や方言・島唄、特産品などについて調べ、まとめる活動をしている。この学習で、本やインターネットなどの資料や周りの大人に聞いて調べる活動や、それをまとめて発表する活動をしてきた。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、鹿児島県が全国有数のじゃがいもの産地であり、鹿児島県のじゃがいも収穫量の約3割が徳之島産であることを知ることから始める。ここで徳之島産のじゃがいもをもっと多くの人に知ってもらうにはどうすればよいかという問いをもたせ、単元のめあてにつなげたい。

次に、徳之島産のじゃがいもをPRしていくために、じゃがいもについて調べる学習を行う。なぜ徳之島の環境がじゃがいも作りに適しているのか、徳之島産のじゃがいもに合った調理法は何か等を調べていくことで、自信をもってPR活動ができるようにする。同時に、学校でじゃがいも栽培を行っていく。

そして、行政や企業が行っているさまざまなPR活動をもとに、徳之島産のじゃがいもを知ってもらうための方法を考える。これまでの活動を生かして、分かったことをポスターやパンフレット等にまとめ、実際に行政やJA等に協力をもらい、PR活動を行う。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性：様々な環境等の条件が関わり合って、じゃがいもは育っていることに気付く。

連携性：農家や行政、企業等が協力して、じゃがいも栽培や販売に取り組んでいることに気づき、地域の方々や友達と協力して活動を行うことができる。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

計画を立てる力：多くの人に知ってもらうためにはどうすればよいか考え、完成に向けて計画を立てることができる。

他者と協力する態度：調べ学習では、グループで役割分担をしたり、得られた情報を共有したりする活動を通して、よりよい活動にしようとすることができる。また、農家や行政、JA等と連携して、徳之島産のじゃがいもを広める活動を行うことができる。

進んで参加する態度：どうすればもっと多くの人に徳之島産のじゃがいもを知ってもらい、食べてもらえるのか考え、実践しようとする。

・ 本学習で育てたいESDの価値観

人権・文化を尊重する：徳之島の人々が大切に育てているじゃがいもに親しみをもち、大切にしようとする。

幸福感を重視する：徳之島のよさを感じることで、地域に対する愛着を深める。

・ 達成が期待されるSDGs

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①徳之島産のじゃがいものよさや栽培方法等について理解している。 ②資料やインターネット、インタビューなど目的に応じた情報収集の仕方を考え、得た情報を言葉や図、絵などを用いてまとめる技術を身に付けている。	①徳之島でじゃがいもが生産されているよさや携わる人々の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究している。 ②収集した多様な情報を、分類・整理し、じゃがいもをPRする相手、内容、方法について考え、ポスターやパンフレットに表現している。 ③自分たちが地域のために何ができるか考えている。	①徳之島産のじゃがいもに関心をもち、そのよさや特長などをPRできる方法を、自分なりに工夫しながら考えたり見つけたりしている。 ②PRの仕方について、他者の考えを受け入れ尊重しながら、協働して考えている。 ③自分たちにできるPR方法を進んで考え、提案しようとしている。

5. 単元の指導計画（全 24 時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1	○ 徳之島でたくさんのじゃがいもが作られていることを知り、課題を考える。 - なぜ徳之島で多くのじゃがいもが栽培されているのだろう。 - 多くの人に知ってもらうには、どうすればよいのだろう。	徳之島産のじゃがいもについての資料を提示し、全国的にも上位の収穫量であることを示す。反面、あまり知られていないことについて伝え、課題意識をもたせ、単元のめあてを立てる。	イ① (思判表) ウ① (主体的)

2	○ 栽培方法について知る。 ○ じゃがいもの植え付けを行う。	・ ゲストティーチャーを迎え、栽培方法や植え付け方を教えてもらい、じゃがいも栽培を行っていく。	ア① (知・技)
3	○ 徳之島産のじゃがいもについて調べる。 ・ なぜ徳之島で多くのじゃがいもが生産されているのか。 ・ 徳之島のじゃがいもにぴったりの調理法は何か。	・ 様々な方法でじゃがいもについて調べ、徳之島産のじゃがいもがたくさん栽培されていること、とても美味しいと言われていることに気付かせる。	ア①② (知・技) ウ① (主体的)
	○ 徳之島産のじゃがいもを知ってもらうために、どんな取組がされているのか調べる。 ・ 様々なイベントが行われているよ。 ・ ふるさと納税の返礼品としているな。(じゃがいも、コロッケ) ・ 給食に出されているな。 ・ 通信販売で売っているところがあるよ。	・ もっとたくさんの人たちに食べてもらうには、どんな取組をしているとよいか、実際に行われている事業を調べて考えさせる。	
4	○ 徳之島産のじゃがいもをもっと知ってもらうために、自分たちに何ができるか考える。 ・ 徳之島産じゃがいものよさをポスターやパンフレットにしよう。 ・ じゃがいもを使ったレシピをたくさんの人に知ってもらえないかな。 ○ 実践する。	・ どんな人が購入しているか調べ、これまで調べたことをもとに、自分たちにできることを考えさせる。 ・ 天城町役場の協力をもらい、東京で行われる「徳之島観光・物産フェア」にポスターを貼ってもらったり、パンフレットを置いても	ア② (知・技) イ② (思判表) ウ②③ (主体的)

	○ ジャがいもを収穫する。	らったりする。	
5	○ 活動を振り返る。 - フェアの様子を知る。 - これから自分たちに何ができるか考える。	- フェアの様子を写真で見せたり、様子を担当の方に聞いたりして、自分たちが活動したことがどのように影響を与えたか知らせる。 - ジャがいものことに限らず、徳之島のことを知ってもらったり、よりよくしたりする方法まで広げて考えさせる。	ア① (知・技) イ③ (主体的)